

## 高い気温が続く見込み！適切な管理で健苗育成の実践を！

### ◎ 播種作業

- 田植日から逆算し計画的に播種を行いましょう。移植適期は5月15～20日です。
- 田植えの遅れは初期生育の遅れの要因に、老化苗は活着不良の要因になります。

☆作業時期の目安【田植えを5月20日にする場合】

田植え日から逆算して  
計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬開始日	催芽日	播種日	育苗期間	葉数 5/20
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	<b>4月25日</b>	20～25日	2.5枚
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	<b>4月15日</b>	30～35日	3.5枚

### ◎ 育苗期間の温度・水管理

- ハウス内および苗床（被覆資材下）の両方に温度計を設置し、温度確認をこまめに行いましょう。

苗床も

温度を確認！



#### 【低温対策】

- ・保温性の高い資材で温度を確保しましょう。低温時に遮光性の高い資材を使用する場合は苗床の地温が上がらず、出芽に時間を要する場合がありますので注意が必要です。

#### 【高温対策】 ～ハウス内の気温が40℃を超えるとわずか30分でヤケることがあります～

- ・晴天時は高温障害が発生しやすいので特に注意が必要です。温度が上がる前に早めにハウスを開放する、遮光資材を使う等の対策を取りましょう。
- ・保温マットを使用した場合、気温が高い日は苗床の温度が急激に上昇することがあるため、早めに換気、保温マットを除去する等の対策が必要です。

#### 【育苗期間の温度管理】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな管理を行う。
緑化期 (出芽後2～3日)	25℃	15℃	○外気温が25℃以上の日は苗ヤケに要注意！早めにハウスを開ける。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○低温時には保温に努める。 ○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では、1.5葉期頃から入水し（上限は床土の高さまで）、ハウスを開放します。2葉期以降は、育苗箱の上1cm程度の水深で常時湛水とします（最大でも草丈の半分以下）。
- プール育苗は苗が伸びやすいので、夜間が5℃以上の場合は、昼夜ともハウスを開放し、ハウス内気温を低めに管理します。（低温・降霜が予想される場合は、ハウスを閉めるなど保溫的管理を徹底。）

## ◎ 育苗期間中の病害対策

○出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。  
カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

### 【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状		発生条件	発生抑制のポイント
リゾプス	覆土を覆う白いカビ		出芽時の 高温多湿	○33℃以上の高温、 多湿にしない
フザリウム	根のまわりに白色～ 淡紅色のカビ		出芽～緑化 期の低温、 湿度の変動 が大きい	○低温をさけ、適切 な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない、ムレ苗 2葉期頃に葉の萎凋症状			
トリコデルマ	床土や糞の修正に白色～ 青緑色のカビ		水分不足 育苗土の 低 PH	○33℃以上の高温、 多湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉葉身基部の黄白化、 枯死、坪枯れ		高温多湿 育苗土の 高 pH	○高温多湿にしない ○発生した場合は苗 速やかに処分

## ◎ 土づくり肥料を積極投入

○天候不順な中、安定的に米の品質・収量を確保するためには、「土づくり」は必須技術です。  
特に、**ケイ酸資材**は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上の効果が期待できます。土壌 pH の改善にも有効です。積極的に施用しましょう。

**【施用の目安】ケイカル 120 kg/10a**

○土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のため、**耕土深 15cm** を目標に耕起を行いましょう。

## ◎ 品種に応じた基肥量の目安

- 基肥は下表を目安にし、良食味米の生産に努めましょう。
- 一発肥料を使用する場合は、慣行の基肥+追肥の合計窒素量を上限とします。
- 堆肥を施用する場合は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、堆肥の特徴を把握し、散布量を決定します。また、堆肥を施用した場合は、基肥を減肥しましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

## 見直そう！ 農業機械作業の 安全対策！

春作業はトラクター等の機械作業が多くなります。作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故をなくしましょう。

**令和4年度 春の農作業安全運動展開中（4/10～6/10）**